

2019年度 文化庁概算要求の概要

(単位:億円)

区 分	前年度予算額	2019年度 要求・要望額	増△減額	増△減率	備 考
文化庁予算	1,077	1,331	253	23.5%	うち 「優先課題推進枠」 190億円

◇ 文化芸術の力で未来を切り拓く ◇

- ◆文化芸術立国に向けた文化芸術の創造・発展と人材育成
- ◆文化財の確実な継承に向けた保存・活用の推進
- ◆文化資源の戦略的活用による創造的で活力ある社会づくり
- ◆文化発信を支える基盤の整備・充実

2019年度要求・要望額 (前年度予算額)

1. 文化芸術立国に向けた文化芸術の創造・発展と人材育成

294.0億円 (233.0億円)

(1) 文化芸術創造活動への効果的な支援

120.2億円 (72.3億円)

① 我が国の文化芸術の創造力向上と国際的発信

83.2億円 (45.4億円)

世界における日本の文化芸術への関心と評価を高めるため、我が国の文化芸術各分野の総力を結集して、新たな文化芸術の創造と発信を図り、生活文化等について、観光や異業種との連携等を推進することにより新たな文化価値を創造する。また、障害者による文化芸術活動を推進するとともに、「日本博2020(仮称)」の企画・実施を進める。

- ・戦略的芸術文化創造推進事業(60件程度)
- ・障害者による文化芸術活動推進事業(20件程度) 等

※「3. 文化資源の戦略的活用による創造的で活力ある社会づくり」に一部再掲

② 日本映画の創造・振興プラン

18.3億円 (10.8億円)

日本映画を振興するため、多様な日本映画の製作や国際共同制作など創造活動の促進、国内外の映画祭等における積極的な発信・展開を通して映画関係者・団体等の交流を推進する。

- ・日本映画製作支援(劇映画 25作品程度) 等

③ メディア芸術の創造・発信プラン

12.1億円 (9.8億円)

メディア芸術の創造及び発信を促進するため、メディア芸術祭の開催、若手クリエイターの創作活動の支援や発表機会の提供、世界的なフェスティバルとの連携による海外発信を行う。また、メディア芸術の情報拠点等の整備状況を踏まえ、メディア芸術作品のアーカイブ化を推進し所蔵情報等の整備を実施する。

- ・メディア芸術グローバル展開事業(メディア芸術祭開催・メディア芸術海外展開等)
- ・メディア芸術連携促進・所蔵情報等整備事業 等

(2) 新たな時代に対応した文化芸術人材の育成及び子供たちの文化芸術体験の推進

88.9億円 (82.3億円)

① 新進芸術家等の人材育成

18.1億円 (16.8億円)

才能豊かな新進芸術家等に、海外の大学や統括団体等における実践的な研修の機会を提供すること等により、次代を担い、世界に通用する芸術家等を育成する。

- ・芸術団体等人材育成事業(40件程度) 等

② 文化芸術による創造性豊かな子供の育成 70.8 億円 (65.4 億円)

◆文化芸術による子供育成総合事業 57.6 億円 (52.7 億円)

〔 小・中学校等において、実演芸術の巡回公演又は芸術家の派遣を行い、子供たちに対し質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供するとともに、実演指導・ワークショップ等を行う。また、芸術教科担当教員への研修等の機会を確保する。〕
・文化芸術団体による巡回公演・合同開催事業(1,930件程度)
・芸術家の派遣事業(3,150件程度)
・芸術教育における芸術担当教員等研修事業(45件程度) 等

◆伝統文化親子教室事業 13.2 億円 (12.7 億円)

〔 子供たちが親とともに、民俗芸能、工芸技術、邦楽、日本舞踊、茶道、華道などの伝統文化・生活文化等を体験・修得できる機会を提供する。(4,100件程度) 〕

(3)文化芸術資源の創造・活用による地方創生と新たな価値の創出 84.8 億円 (78.4 億円)

① 国際文化芸術発信拠点形成事業 18.5 億円 (12.5 億円)

〔 文化資源により社会的・経済的な価値を創出し、訪日外国人(インバウンド)の増加や活力ある豊かな地域社会の形成等に資するため、芸術祭などを中核とし、国際的な発信力を強化した大規模かつ持続的な文化芸術発信拠点形成を支援する。(12拠点程度) 〕
※「3. 文化資源の戦略的活用による創造的で活力ある社会づくり」に再掲

② 劇場・音楽堂等機能強化推進事業 28.0 億円 (28.0 億円)

〔 地域の劇場・音楽堂等の活性化と実演芸術の水準向上を図るため、財政基盤の強化と評価システムの構築を行いつつ、公演事業や専門的人材の養成、普及啓発活動、バリアフリー・多言語対応等への支援を行う。 〕
・劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業(15施設程度)
・地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業(130件程度)
・劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業(70件程度) 等

2. 文化財の確実な継承に向けた保存・活用の推進

599.8億円(481.6億円)

(1)文化財の適切な修理等による継承・活用等 415.5 億円 (380.0 億円)

① 建造物の保存修理等 133.7 億円 (122.0 億円)

〔 国宝・重要文化財(建造物)を次世代に継承するための修理や、自然災害等から護るための防災施設等の整備、耐震対策等に対する補助を行う。(支援件数:310件程度) 〕

② 美術工芸品の保存修理等 16.4 億円 (11.2 億円)

〔 材質が脆弱で経年による風化や材質疲労等による損傷が進行した国宝・重要文化財(美術工芸品)の修理、防災施設等に対する補助を行う。(支援件数:310件程度) 〕

(2)文化財の公開活用、伝承者養成、鑑賞機会の充実等 107.9 億円 (43.7 億円)

① 無形文化財の伝承・公開等 14.6 億円 (13.8 億円)

〔 重要無形文化財及び選定保存技術の保持者、保持団体等が行う伝承者養成及び文化財修理技術者の人材育成、原材料・用具の確保等や、重要無形民俗文化財の保護団体等が行う伝承者養成や用具の修理に対して補助等を行う。 〕
・重要無形文化財保持団体等補助(35団体程度)
・選定保存技術保存団体等補助(35団体程度)
・民俗文化財伝承・活用等事業(50件程度) 等

- ② 国立アイヌ民族博物館の整備等 67.7 億円 (14.7 億円)
 [アイヌ文化振興等のナショナルセンターとして整備される民族共生象徴空間の中核施設の一つである博物館(2020年4月開館予定)を北海道白老町に引き続き整備するとともに、運営準備を進める。]

(3)文化財を活かした観光戦略推進プラン(一部再掲) 155.5 億円 (123.3 億円)

- ① 社会情勢に対応した文化財保護への機動的対応 10.9 億円 (新 規)
 [観光資源としての活用や新たな修理手法の獲得等、一般的な修理周期以外の観点で踏まえた支援を行うことで、文化財の保存と活用に係る社会情勢の変化等による喫緊の課題への対応の強化を図る。(支援件数:50件程度)]
- ② 日本遺産魅力発信推進事業 14.6 億円 (13.4 億円)
 [地域に点在する有形・無形の文化財をパッケージ化し、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定するとともに、認定地域の文化財群を総合的に整備・活用し、国内外に戦略的な発信をすすめる取組への支援等を実施する。(支援件数:50件程度)]

(4)文化財継承のための基盤の整備(再掲) 294.0 億円 (245.8 億円)

- ① 適切な修理周期等による文化財防衛の推進 278.3 億円 (237.1 億円)
 [適切な周期による文化財の修理・整備、災害や故意の毀損等から護るための防犯・防災対策等に対して補助を行うとともに、文化財の散逸等防止のため、文化財の買上げを行う。
 ・国宝・重要文化財建造物保存修理強化対策事業
 ・国宝・重要文化財美術工芸品保存修理抜本強化事業 等]
- ② 文化財を支える伝統の技伝承基盤強化プラン 7.7 億円 (4.5 億円)
 [文化財の保存技術や用具・原材料を次世代に継承するため、現在の状況の実態把握、技の継承や原材料確保等への支援、国内外への情報発信等を進める。]

3. 文化資源の戦略的活用による創造的で活力ある社会づくり(一部再掲) 196.2億円 (132.5億円)

(1)文化財等が円滑に活用される仕組みの整備 25.7 億円 (21.7 億円)

- [全国の文化財活用を促進するためのセンター整備や、博物館を中核としたクラスター(集積地区)を形成し、地域の文化財と様々な資源を新たな創造的活動や事業に結び付け、地域振興や新たな事業を創出するなど、文化財や生活文化等の積極的な活用を推進する。]
- 文化財活用のためのセンター機能の整備 9.8 億円 (8.0 億円)
 [全国の地方公共団体、博物館・美術館等からの相談への一元的な対応、展示環境に関する科学的研究成果の提供・助言、企業等との連携による高精細レプリカやVR等を活用したビジネスモデル創出を行うセンター機能を整備し、国内外の人々が文化財に接する機会を拡充する。]

(2)文化財への理解が再投資を生む好循環サイクルの構築 83.2 億円 (69.4 億円)

- [観光客が長時間滞在できる史跡等整備や文化財の美装化への支援を通じて、文化財への再投資を生む好循環サイクルを構築する。]

(3) 国際的な文化芸術の拠点形成等 **83.3 億円 (39.5 億円)**

- 国際文化芸術発信拠点形成事業
- 戦略的芸術文化創造推進事業
- 「日本博2020(仮称)」の企画・実施 等

(4) 産業と文化の連携による市場創出 **4.0 億円 (1.9 億円)**

産業界と文化関係者の戦略的な枠組みを構築し、文化振興を通じた新たな市場形成に貢献する。また、小規模な我が国のアート市場の活性化と我が国アートの国際発信を強化する。

4. 文化発信を支える基盤の整備・充実 **420.1 億円 (325.8 億円)**

(1) 国立文化施設の機能強化 **325.0 億円 (291.7 億円)**

国立文化施設における展覧・公演事業等の実施、収蔵品及び観覧・鑑賞環境の充実等を含め、ナショナルセンターにふさわしい機能強化を図る。

◆運営費交付金

- ・施設内の観覧・鑑賞環境(多言語化や夜間開館など)の充実 等

(2) 国立文化施設の整備 **80.5 億円 (23.0 億円)**

◆美術館・博物館・劇場の施設等の充実

- ・基幹施設(展示設備、舞台設備等)改修工事 等

(3) 生活者としての外国人に対する日本語教育の充実等 **5.1 億円 (2.2 億円)**

- 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業 **3.0 億円 (新規)**

新たな在留資格の創設等を踏まえ、地方公共団体が関係機関等と有機的に連携し、日本語教育環境を強化するための総合的な体制づくりを推進するとともに、「生活者としての外国人」の日本語学習機会の確保を図る。(15件程度)

※2020年以降へのレガシー創出に特に資する文化プログラム関係経費 81億円。

※ICOM京都大会を契機とした博物館の創造活動への支援関連経費 57億円。

※他に復興特別会計で国指定等文化財の復旧等 6億円を計上。